

第2回 鳥取市市民自治推進委員会 議事概要

1 日 時 平成26年6月25日(水) 15:00～17:35

2 場 所 鳥取市役所本庁舎 4階第2会議室

3 出席者

(1) 委 員 池井委員長、渡邊副委員長、佐藤委員、上田委員、福島委員、佐々木委員、岡村委員、四宮委員、坂本委員、高塚委員(順不同) 委員出席者10名

(2) 鳥取市 馬場協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、雁長協働推進課係長、岡田協働推進課主任、井上協働推進課主事

(3) 傍聴者 なし

4 議 事

(1) 審査事項

市民まちづくり提案事業 協働事業部門(行政提案型事業) 交付申請団体の審査について
《2団体の申請書類及び公開プレゼンテーションによる審査》

【申請団体】

- 1 鳥取民藝エリア活性化プロジェクト
- 2 まちづくり・いきいき成器の会

(2) 協議事項

先進的活動団体との勉強会について
事務局説明

(委員長)

協議事項の 先進的活動団体との勉強会について、事務局から説明をお願いします。

事務局説明

(委員長)

事務局から、勉強会について2案提案があったが、それを含めて他にも皆さんから提案があればお願いしたい。

(委員)

地域おこし協力隊との意見交換については、どの辺りにテーマを絞って話をされるのが漢

然としている。地域おこし協力隊はいろんなことをされているので、鳥取市にどう役に立つのか見えづらい。漫然と意見交換をしてみても、得るものは少ない。中山間地域について言えば、高齢化が非常に進んでいて、5年経てば老々介護状態が日常化するであろうと言われる地域が相当数でてきている。地域おこしはいろいろあるが、例えば生活サービスについてなど、テーマを絞って意見交換するのも1つの方法かもしれないと思った。その意味でポイントを絞って、案2のほうがよい。

(委員長)

今の意見について、事務局から願います。

(事務局)

確かにいろいろな活動をしておられる。活動内容として、各市町村が募集の際に、こういう活動をしてほしいというものをあげているが、すべての活動を網羅できてはいない。基本的には、地域外から来られた方なので、そういった目で見えた中山間地域なり、県内の状況を新たな目で見たところが聞けて、鳥取市に活かせるのではないかと思っている。どちらにしても日程調整の関係で、聞きたい内容、地域と実際の視察先が合致しないこともあるのを心配している。

(委員長)

鳥取市は、平成26年度から4名とあるが、他のところはいつ、どうされたのか分からない。

(事務局)

当然一律ではなく、何名か受け入れをされて、その後追加で受け入れされるところもある。また、1年から3年の期間があるので、そういった意味で長い期間活動されているところは少ないかもしれない。

(事務局)

平成25年度の地域おこし協力隊の活躍先という一覧に、智頭町、三朝町などあるので少なくとも昨年受け入れていたのは間違いない。

中山間地域での生活サービスということが先ほどの意見にあったが、佐治町の活動内容に移動販売や買い物支援も考えての活動を目指しているようなので、委員会でもこういう点でどうやっていこうとしているのか、というような話し合いもできると思う。

(委員長)

別の案があるという方はあるか。

(委員)

境港市や松江市はどうなのか。

(事務局)

視察の予算がないので難しい。

(委員)

まちの中心がうまくいっているところを見るのが、一番有効ではないかと思う。中心が盛り上がりず中山間地域が盛り上がることはないように思う。そこの成功例を聞けたら参考になるのではないかな。

(委員)

地域おこし協力隊はこれからやろうとしている人たちなのか。結果が出ているのか。

(事務局)

鳥取市の場合は、今年からなので結果は出ていない。智頭町、若桜町のあたりは既に取り組んでいる。

(委員)

先進地視察はいいが、見てきたという活動をPRしたり、推進したりするという活動はこの委員会には無い。見てきたことをどう活用するのかよく分からない。せっかく見ても活用しなければPRしようがない。この会でどこかに提言、提案するといったものが無いと、せっかく勉強してきてもこの会で行き止まりになってしまうと思う。

(委員)

24年度、25年度の勉強会については、それなりに良かったと思うが、今回の勉強会についてはぴんと来ない。智頭町にしても若桜町にしても、急激な人口減少が目に見えていて、2人や3人引引っ張ってきてもどれだけ活性化に繋がるのかは非常に疑問に思う。智頭町も佐治町も、どんどん人が減っていくのが見えているし、団塊の世代がもっと年をとれば高齢化しているのでその後をケアする住民すらいなくなるという状態である。そのあたりのことを押さえていないと、本来の活性化には繋がらないと思う。皆さんはどう考えられるのか。佐治町にも施設はたくさんあるが、実際働く人がいない。雇用が無いと言うが、雇用の場を作っても地域住民が働こうとしない。活性化させようと思えば、鳥取市から働く人をバスで移動させて、そこで事業を興さなければいけないのではないかなとも思う。ましてや移動販売についても、注文した物だけ持っていくのならいいが、多分こういうニーズがあるだろうという物を車に積んでいく。もし売れなかったらどうなるのか。その負担は誰が持つのかということを考えると、口では簡単に言うが、移動販売というのはとても難しい。西部の取り組みのように、全高齢者宅にタブレット端末を置き、操作の仕方を教えて、欲しい物を自分たちで入力して、注文を受けた物を持っていくというのなら确实だが、需要の分からないもの、ニーズがはっきり分からないものを車に積んで持ってあがってみても事業的には成り立たないという問題点もある。まちおこしということもあるが、現実のことを考えると、特に急激に人口が減ってきている地域については、疑問に思う。

(委員)

認識不足かもしれないが、今年度の勉強会の課題として、こういうことを学びたい、鳥取市

としてこういうことが必要だということが話し合われて勉強会の提案がなされているのか。24、25年度はこういうことが勉強したいということがあって内容が決定されたと認識している。今回は目的がはっきりしていないから、いろんな意見が出てきて、收拾がつかない。好き嫌いの問題で選んでいいのかと思う。事務局として、これまでの委員会を踏まえ、こういうことを勉強したほうがいいということがあって提案したという説明があればもう少し分かりやすいと思う。

(事務局)

とっとり県民活動活性化センターについては、全国には県下の市民活動団体を束ねるセンターがたくさんある。鳥取県だけはそういう組織が無い。鳥取市の場合は、市民活動活性化センターがあって、ある程度連携をとってやっておられるが、県にはそういうものが無いということで、県が立ち上げられたところである。現在、東中西部の団体の連携や、NPO・市民活動団体を立ち上げるノウハウ、財政問題に対する相談事業などをされていて、これから市民活動を推進していくうえで、センターがどのように動き、どういう活動をされているのかを見聞きすることによって、これから市民活動が活性化していくうえでの知識が積み重なっていけるように思う。このセンターは、研修も出られていて、自分たちの活動のPRもたくさんされているところである。これから市民に広く浸透させていくべき団体ではないかと思う。

地域おこし協力隊については、総務省が国と地域の人口の格差を減らすために人口が減少している地域にまちなかから来ていただいたもので、財源は交付税である。まちづくりに若い人の意見を取り入れてもらうということで始められた事業である。去年2月に米子で開催された「鳥取力創造まつり」で倉吉市の地域おこし協力隊の女性の方が出ておられて、活性化を目的に地域と交流されていた。外部に発信したり、地域の人とコラボレーションさせたイベントを立ち上げられていた。これは鳥取市でも中山間地域でなくともできる活動なので、地域おこし協力隊はこれからどんどん増えていくと思う。これからどのように受け入れていけばいいのか、どのように活用していけばいいのかということが学べるのではないかとすることでこのような案をあげさせていただいた。

(委員長)

鳥取市では佐治町ということだが、どこに居住しているのか。

(事務局)

佐治町に住んでいらっしゃる。今後、気高、鹿野、河原にも来ていただく予定である。

(委員長)

これは、住むことが条件になっているのか。目的が地域おこしなら当委員会の目的に合致するので、地域おこし協力隊のやっていることや今後の展開などを発表していただくことが可能であれば、その方向でもよい。とっとり県民活動活性化センターは、この組織では広すぎるし、あちこちまとめたという話ではどうにもならない。各論をやっているのに総論はこうだという議論を持ち出されても困る。地域おこし協力隊で来られた人は、それなりの覚悟で来られたのだから、その覚悟や現状、今後の展望を話す機会を作ってあげるのもいいのではない

か。

(委員)

実際、佐治町では何をやっているのか。

(事務局)

資料に掲載している以外のことは把握していない。当初4名の募集に2名しか応募がなかった。現在、地域に住んで目標に向かって活動しているところである。

(委員)

まだ仕事はないのではないかと。勉強して企画は次の年ぐらいに出されるのではないかと。

(委員)

採用される前に企画書を提出されているのではないかと。実際に住んで何をされているのか。土づくりにしても10年かかる仕事だし、新しい特産品にしても時間のかかることである。「かみんぐ百彩」も1週間に1回は行っているが、新しい人が来て農産物売って歩いているという状態でもない。梨園はとてつ力のかかるものだから、すぐにはできない。まして、イノシシやシカの肉を加工することはすぐにはできない。

(委員長)

だからこそ、自分なりにどういう考えを持ってやっているか、レポートでも出してもらって、話を聞いたり、意見交換するというのはいいいのではないかと。

(委員)

地域おこし協力隊の委嘱期間はどれぐらいかと。

(事務局)

1年から3年である。3年目までは国から交付税が出るということになっている。

(委員)

委嘱の手順はどうなっているのか。新規のNPO法人や評議会などからの要請で行うのか。

(委員)

私のところにも加工グループとかイノシシのグループとかたくさんあるが、制度の適用を受けず、別の運用資金で行っていて、資金が入ってこないものがたくさんある。イノシシでも1頭獲れば、子どもだろうが何だろうが1万円になるそうで、狩猟免許を持った人がいて、解体を自分のところで処理するということにすればもらえるということだった。私の地域では年間で50頭ぐらい獲れる。また、農産物の加工食品グループもJAの方や女性を中心にイベントのときには販売を行っている。私の地域のNPOも地域の手伝いということで草刈りや屋根の修理、植木の剪定などいろいろやっているが、これも自己財源でおこなっていて、補助

が無い。そういう団体がどういうことをやっているか調べる方法が無い。賀露の「おやじの会」さんでも相当広い活動をしておられるが、資料には補助を受けておられる団体が載っていると思うので資料に掲載された範囲が少ないのかなと思う。

(委員)

地域おこし協力隊は、1人の人が複数の地域の課題に対してのアドバイスで関わるのか。

(委員)

4人とも佐治に居て佐治地域だけに関わっていく。

(委員)

とっとり県民活動活性化センターは、県内市町村にあるNPO法人などの情報交換や総合的なアドバイスをされたり、NPO法人の設立の仕方といった総合的な指導教官みたいな感じで、個々の地域の問題については、それぞれ地域のNPO法人なり協議会、まちづくりの関係で取り組んだほうがいいと思う。内容が漠然としていて、本委員会の参考にはならないと思う。テーマを絞り込むべきというのももっともで、しいて分ければ中心商店街の活性化とか中山間地ではみな共通の課題を持っていると思う。若い人が流出してしまっていて、市内に住んでしまっている。農業の耕作の問題、後継者の問題、年寄りの病院通いや買い物といった生活環境など、中山間地はある程度共通課題を持っている。中山間地の問題と、旧鳥取市内の商店街の空き店舗をいかに活用していくかといったようなところではどうか。

(委員)

なぜ地域おこし協力隊が必要かというのは、NPO法人などがほとんどなく、集落として機能していないところを活性化させるために作られたものなので、まちなかにはいらぬものである。委員会として、中山間地域、特に限界集落と言われるようなところを立ち直らせていくことをテーマとして扱うかどうかという問題だと思う。

(委員)

今日、まちづくりアドバイザーとして西郷むらづくり協議会会長の谷口興治さんが委嘱を受けて、東中西で開催されるフォーラムのポスターを見た。残念ながら、この委員会で今年新たに勉強したいという課題が明確ではないから事務局も困るし、私たちもはっきり言えないのだと思う。中山間地を振興させようと新しく設けられた部署である新市域振興監が計画している東中西で開催されるフォーラムに、それぞれ参加をして課題を持ち寄るというのも1つの案ではないかと思う。

(委員長)

今の提案に対して事務局からは何か意見はあるか。

(事務局)

7月の土曜日にあるフォーラムなので期間が短く、日程的にどうかと思うが、それに参加す

るということか。

（委員）

フォーラムに参加して、研修に代える。東中西で課題も違っていったと思う。市長とそれぞれの地区のアドバイザーがパネリストになっておられた。課題を再度検討しようということなら、自主参加ということになると思うが、課題もはっきりしないし、しなくちゃいけないからという勉強会なら、もうちょっと積極的にフォーラムを活用したらどうかと思う。

（委員長）

形式的というのではなく、事務局からの提案には真摯に答えていくべきだと思う。それを否定できるだけのものがあればそれはそれでいいと思う。この提案は、新市域振興監が開催する「新市域の夢のあるまちづくりフォーラム」のどれかを聞きに行きに行って学習するということが。

（委員）

みんなが揃ってということではなく、自分が一番興味のあるところに参加してあとで意見を出し合うというのはどうか。

（委員）

参加する会場が偏らないかというのが心配である。偏るのはいいが、どこも行かない会場があるというのは困るかなと思う。好きなところというよりは、分担したほうがいいと思う。視察の旅費は無いということだったが、誰かを呼ぶ予算はあるという認識でいいか。

（事務局）

報償費も無い。

（委員）

そうすると、無償で来てくれる人しか呼べない。それで「とっとり県民活動活性化センター」というのであれば仕方ないかなと思う。地域おこし協力隊の話も聞いてみたいような気もする。活動内容をここにいたみなさんがよく分からないということなので、実際活動されている方から詳細に聞くのが一番いいのではないかなと思う。先ほどのフォーラムのパネリストである新市域振興アドバイザーの方の話も聞いてみたい。どういう活動をされているのか興味があるので、この中の誰かに来てもらうのも1つの案だと思う。地域振興が、地域によってまったく違うことをしているのかどうか認識していないが、もし似たような方向があって、それに基づいて各地域でやっているというのであれば、根本は一緒なので、一人の方を呼んで話を聞くのもいいと思う。地域によってやっていることが違うというのであれば、全部回るか、代表の方に来ていただいたほうがいいと思う。

（委員）

まちづくりフォーラムに参加して、聞いてきたという報告をするよりは、地域おこし協力隊の方が実際に来て、どういうことをして、どういう効果が上がっているということを聞いたほ

うがいいと思う。

（委員）

委員会として地域おこし協力隊を選択したほうがいいと思う。フォーラムについては、各委員が興味を持たれるようなテーマがあるところへ参加されたらいいのではないかな。いろいろなテーマがあって、新市域アドバイザーからもいろいろな話が聞けると思うので、各委員の自主的な判断に任せたらいいと思う。

（委員）

地域おこし協力隊の方と以前他の地域で接触を持ったことがあるので、具体的な中身を聞かせてもらったらいいと思った。地域おこし協力隊のシステムやどんな活動をしているのかが分からないということだったので、もうちょっと資料を調べてもらって、話してもらってテーマを見つけ出していくというのはどうか。

（事務局）

勉強会として、昨年度は1月に朝来市に行ったが、委員会として課題がなかったので事務局で提案させていただいたものである。今回、地域おこし協力隊との勉強会でどうかということであれば、もう少し細かい内容を確認して、来月の勉強会開催の予定を先に延ばしてもいいように思う。地域おこし協力隊の情報収集をしたうえで、次回の委員会でもお示ししたい。その頃にはもう少し経験を積まれて、実体験に基づいたお話が聞けると思う。

（委員）

フォーラムについては、興味のあるところに行ってみるということでもいいと思う。これだけで絞ってしまったら、誰がどこに行ったのかまとめるほうが大変だと思う。行った証拠も残らないので、個人的に行かれたらいいと思う。予算が無いといわれるならば一番予算がかからないのは何町なのか。

（事務局）

鳥取市佐治町である。

（委員）

地域おこし協力隊で進めるならば、着任された方をお呼びして、実績や問題点、課題を聞く会を設けたらいいと思う。

（委員）

中山間地では、移動販売サービスというのはだんだん必要になってくる。昨年自治連合会で視察に行った際、都市から10kmぐらい離れた町で高齢化がととも進み、協議会や自治会でマーケットを経営していた。資金が要るので、市からの400万円の補助を財源に、あとは自分たちで行おうというのがその先進地の状況だった。佐治町ではどのようにしているのか。マーケットでは採算もあるので、移動販売ということにしてあるのかなと思うが、その辺りを勉強

してみるのもいいと思う。地域のイベントを開催する際に、他地区の特産物を販売してもらいが、それを加工する方は地域の方なのでたくさんはできないし、結構金額も高い。やられる方は商売でやっておられる感じで、地域おこしというよりグループの財源という感じのほうが強いように思うので、移動販売のほうがいいと思う。

(委員長)

地域おこし協力隊という名前は聞いていても、取組の内容が分からない。今後ますます展開されていくものだと思うので、我々の知識としても、どういう活動をしてどうなるのかということを知るのは必要なことだと思う。その辺りで調査をお願いしたい。

<市民まちづくり提案事業助成金協働事業部門(行政提案型事業)交付申請団体の審査結果について>

《事務局結果報告・委員コメント》

(3) その他

「参画と協働のまちづくりフォーラム」について

(委員長)

「参画と協働のまちづくりフォーラム」についての説明を事務局にお願いします。

事務局説明

(事務局)

実行委員会開催の日程調整は改めて行う。

6 閉会 17:35